



# 『We 鏡中』

令和 8年 6月 1日

## ☆彡「第9回 からつ たらふく 子ども食堂」

5/31(日)に本校体育館で「第9回 からつ たらふく 子ども食堂」が開催されました。当日のはなまる連絡でもお知らせしましたが、本校からボランティアとして54名(3年生34名、2年生7名、1年生13名)の生徒が参加しました。唐津西高校や早稲田佐賀の生徒さん約30名もボランティアとして参加されていました。高校からは、ボランティア部担当の引率の先生もお見えになっていました。

事前準備の様子

【床に案内をテープで作成中】

【提供された飲料ケースを運搬】

【各ブースを準備】



イベント開催中

【各ブースで幼い子の介助】

【幼い子のお手伝い】

【提供物(玉ねぎ等)の配付】



他にも、駐車場での誘導をしたり、各ブースで荷物を机に並べたり、小さい子どもにやさしく声をかけながら手を引いて案内したり、大きな声でよびかけをしたりするなど、自分のできることを精一杯していました。どの生徒の顔もにこやかな笑顔だったことが印象的でした。

運営スタッフの方々から、『遅く来られた保護者さんに、自分から袋に入れた玉ねぎを渡しに行った生徒さん』『荷物が多くなった保護者さんに、ジュースの空き箱をどうぞと言って持っていった生徒さん』『提供された食材等を大きな声で案内していた生徒さん』『手助けが必要だなと感じて優しく子どもに声をかけている生徒さん』『手が空いたら、何か仕事はないですかと言ってくる生徒さん』、鏡中の生徒さんの良いところを沢山見ることが出来ました』と言ってもらいました。私は、そういう見方をしてくださっていることが非常にうれしかったです。

本校体育館で開催してくださったおかげで、本校生徒がボランティア活動を経験する機会を作っていただきました。「人の役に立つ喜び」を感じる経験が何より大切です。「職業」の原則は、「人の役にたつモノやサービスを提供したら、その役に立った分だけ見返りとして報酬を得られる」「誰かの困りごとを解決する」「誰かの生活を豊かにする」という社会貢献の対価としての報酬なので、「人の役に立つ喜び」を幼い時から何度も経験してほしいと思っています。「お金とは、感謝の気持ち(ありがとう)を数値化したもの」ともいわれますが、お金の換算しなくても、自分の行動が、確実に誰かの役に立っていると実感できることは、人が働く上での最大のモチベーション(やりがい)になると考えています。